



## 第51回 加茂市小学校音楽発表会 (11月8日)

お気軽においでください。

### 市民と市長の「よもやま話」の日

1月21日(月)	} 午後1時30分から
23日(水)	
31日(木)	
2月4日(月)	

時間等については御相談ください。

【受付・問い合わせ】 市役所3階 総務課広報広聴係  
(☎52-0080 内線331)  
までお願いします

### 主な内容

- 第40回市展 市展賞受賞作品紹介 ……24
- 現代の名工に木工建具製造の渡辺文彦さん…5
- 長年の功労に感謝 秋の叙勲・褒章…67
- 加茂の名産・物産を発信 振興フェア…8
- 住宅用火災警報器を取り付けましょう…9
- 新・市指定文化財紹介(2)…1011
- 加茂の風土記「加茂の古墳時代の遺跡」…12

第40回 市展  
市展賞受賞作品紙上紹介



洋画 「豊漁のあと」  
永井一九子さん

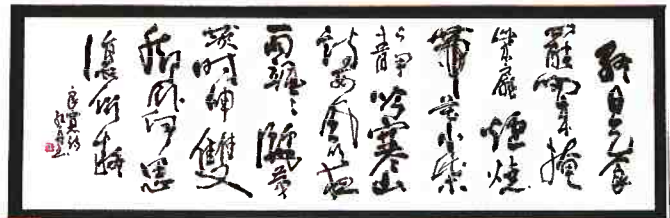
日本画

「翁杉」  
大矢 義夫さん



彫刻

「なつ」  
長谷川 優子さん



書道 「良寛詩」  
大湊 紀舟さん

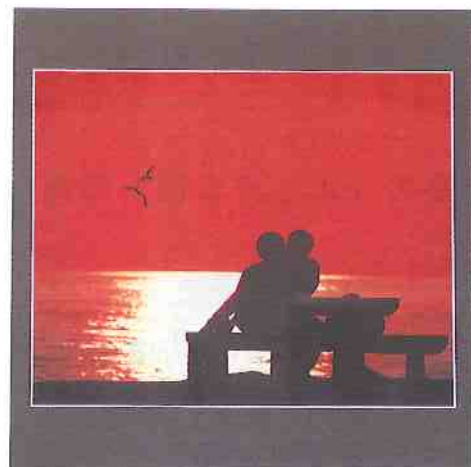
工芸

「朧(おぼろ)」  
本間 淳さん



写真

「愛のサンセット」  
福井 健一さん



第四十回市展の各部門で市展賞を受賞された皆さんから、受賞された感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介いたします。

## 日本画

### 「翁杉」

大矢義夫さん(青海町二)

このたびは、伝統ある日本画部門で市展賞をいただき、大変光栄に存じております。

定年退職後の趣味として、公民館活動に入会させていただき、皆さんと研鑽をしてきた結果と喜んでおります。

今回描いた「翁杉」は、健康維持のために始めた朝の散歩の折に、「そのたくましい生命力」に感銘し、いつか描きたいと思っていた題材でした。

このたび、その翁杉を描いての受賞ができ、ご指導をいただいた先生をはじめ、ご助言をいただいた方々のおかげと感謝いたしております。

これからも絵を楽しみながら、充実した毎日が過ごせたらと考えます。ありがとうございます。

## 洋画

### 「豊漁のあと」

永井一九子さん(神明町二)

昨年、油絵の仲間で村上へ行った際、鮭の加工工場を見学しました。その時、いろいろな表情で吊るされている鮭、美味しそうというよりか描いてみたいと思いました。

二枚描いたうちの一枚が、思いもよらず市展賞に選ばれました。

私は自分なりの絵になり、気に入っておりますので、今回の受賞は特に感激しました。そして、このような榮譽ある賞をいただけたのは油絵と水彩画の両先生と一緒に楽しく勉強している仲間のおかげだと、感謝しております。これからも、健康に気をつけながら、楽しく絵を描いていこうと思っております。

## 彫刻

### 「なつ」

長谷川優子さん(岡ノ町)

彫塑(ちようそ)をはじめ、このつめの仕事です。

首から胸のラインがとてもきれいなモデルさんでしたので胸像に

してみました。作業をしていたのは夏。印象は「あたたかい笑み」です。

「つくりつけなければ」という焦燥感にかられながら、ここ何年か粘土で形をおっています。石膏にする過程は、彫塑の会での共同作業ですので、この賞の三分の一くらいは月遊会の手柄ともいえません。会のみなさんとは、お互いに刺激であり、癒しであり、いい環境で制作させてもらっていると感謝しています。月遊会は月曜日の夜、公民館に会場を借りて(よい作業場を提供いただき、この場を借りて、感謝)活動しています。興味のある方は遊びにきてください。

## 工芸

### 「朧(おぼろ)」

本間 淳さん(上町)

真保先生のやさしく熱心な指導と、紅の会の温もりの中、作品を作っています。

「市展賞」と言われた時、辛いこと、苦しいこと、悲しいことが続いたので、体がザワザワするほどうれしく、賞を励みに、人生と革を、紅色に染め続けたいと思います。

あらためて、真保先生、紅の会

## 第四十回記念功労者感謝状贈呈

第四十回目を迎えた市展開催にあたり、これまでの開催と運営にご尽力いただいた次の方々には感謝状が贈られました。(敬称略)

- 金子年男(日本画・都ヶ丘)
- 湯沢力ヨ(日本画・大郷町一)
- 後藤フミ(洋画・幸町一)
- 中村敏雄(工芸・新町二)
- 中山孤舟(書道・旭町)
- 難波七欄(書道・上大谷)
- 外石富男(写真・前須田)



の皆さん、そしていつも励まし力  
づけてくれた、大切なお友達に、  
深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

## 書道

### 「良寛詩」

大湊紀舟(紀子)さん(幸町二)

第四十回という記念すべきこの  
年に市展賞の榮譽をいただきまし  
たこと、一番喫驚しているのは当  
の本人です。幾年月この道にいそ  
しんできた積もりですが、書いて  
は破り、破っては書いて、「もう  
出展はよそう」、「いやもう一度  
挑戦！」の繰り返しでした。運筆  
と筆墨の配置と筆勢、線質の弱さ  
と粗さを何とか改めようと試行錯  
誤の繰り返しでもあったのですが、  
今回は筆を持つ、文字どおりその  
姿勢から思い切つて変えて、「筆  
の赴くまま」、良寛様の「任運  
騰々」の言葉をたよりに一気に書  
き上げました。

諸先生、書友の方々の厳しいお  
導きと激励があったればこそです。  
ほんとうにありがとうございます。

## 写真

### 「愛のサンセット」

福井健一さん(神明町二)

五年ほど前より趣味である写真  
を再び撮っておりまして。コンテ  
ストの応募では、加茂市展賞を一  
つの目標にしておりました。この  
たびの栄に浴しましたことは身に  
余る光栄とともに、感謝の気持ち  
でいっぱいしております。誠にあり  
がとうございました。

この作品では、日本海の夕日と  
ともに、二人の人物と飛び交う鳥  
との情景の一体感を表現できたの  
ではないかと思っております。日  
本海へは足しげく通いました。そ  
の中でも会心の一枚であります。  
今後受賞に恥じぬよう一層の  
精進を心がけ頑張つて参ります。  
審査員の皆様にはこれからもご指  
導ご鞭撻のほどよろしくお願い申  
上げます。



### 新潟日報美術振興賞

- 日本画「待春の粟」小柳英一(八幡1)
- 洋画「闘牛図B」桑原茂(幸町1)
- 彫刻「文月」中澤恵子(八幡2)
- 工芸「森の精」木村富美子(新潟市西区)
- 書道「亀井勝一郎『薬師寺』より」藤井波江(栄町)
- 写真「あたたかい声援」本間一郎(神明町1)

### 第40回記念特別賞

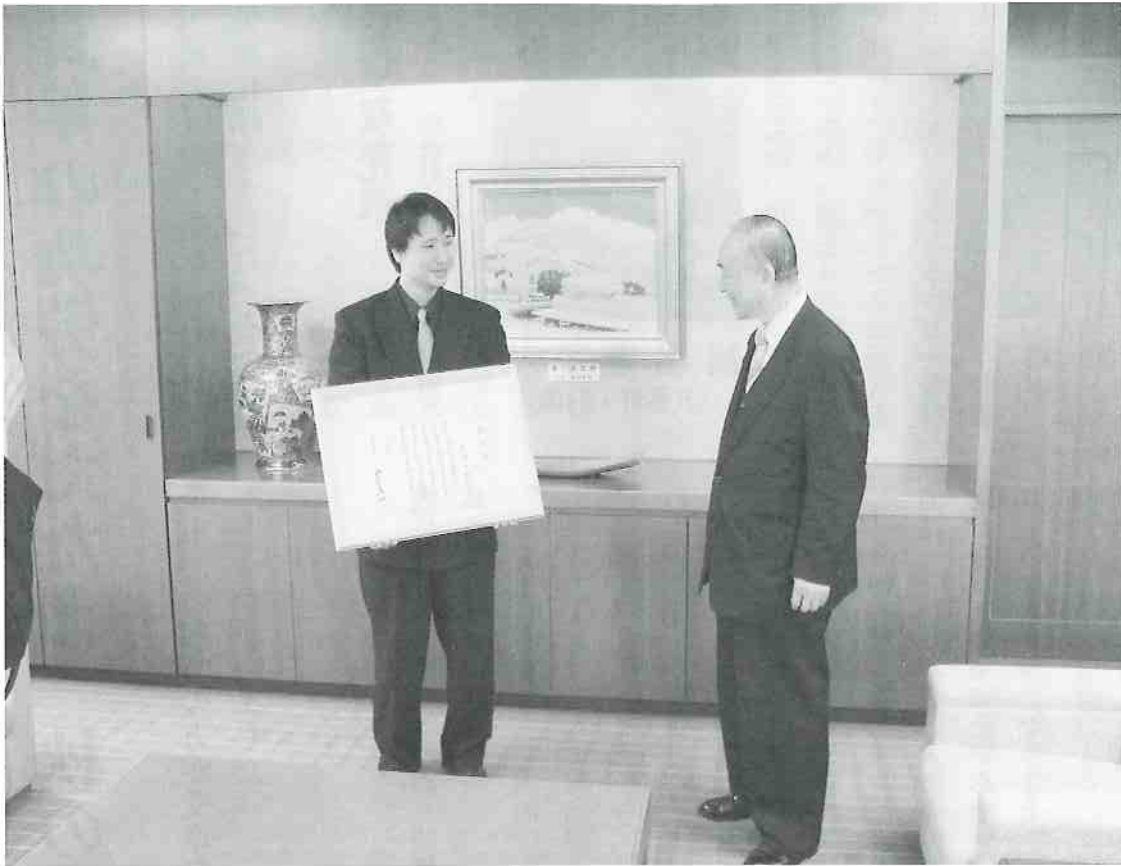
- 日本画「彩」番場仁(横江)
- 洋画「春の淡い雪化粧」田浦明(桜沢)
- 彫刻「Tさんの奥様」永井一九子(神明町2)
- 工芸「しじま」鈴木イツ乃(田上町)
- 書道「良寛のうた」志田景彩(五泉市)
- 写真「オナガガモ061224」市川一行(上町)

## 奨励賞・振興賞の皆さん

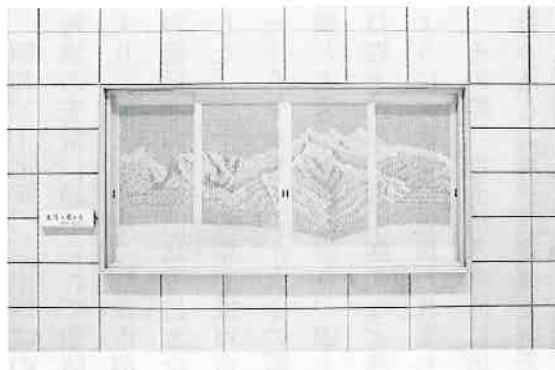
- 奨励賞：日本画 「下条ダムの吊橋」原田栄作(陣ヶ峰)、「蝉しぐれ」菅家照子(陣ヶ峰)  
：工芸 「晩秋」塩野明美(第24区)、「風の紋」小池ゆう子(八幡2)、「静かな森で」永井  
和子(天神林) ；書道 「白楽天の詩 二首」坂上三津(上大谷)、「もみち」佐藤芳春(寿  
町)、「漢詩」菊田亜津(仲町)、「臨 木簡」五十嵐なつみ(三条東高) ；写真 「お手伝  
い」小柳政一(下高柳)、「家族の和」鈴木昌也(新町2)、「こっちむいてー」荒井一郎(第  
23区)
- 振興賞：工芸「水辺の詩」五十嵐舞(加茂農林高) 書道「臨 曹全碑」金子里葉(加茂暁星高)

# 現代の名工に渡辺文彦さん

(木工建具製造工・32歳)



小池清彦市長に受賞の報告をする渡辺文彦さん



美人の湯に展示してある「春待つ栗ヶ岳」

現代の名工は、優れた技術を持つ、製造業などの技術現場で活躍する人たちを厚生労働大臣が表彰するもので、今年、全国で百五十人、県内からは三人が選ばれました。渡辺さんは、建具や屏風に細かい木を組み合わせて作る「組子」の技術が優れていると認められ、全国最年少での受賞でした。

平成十五年には、全国建具展示会で総理大臣賞を最年少で受賞しています。また、加茂美人の湯には、渡辺さんにとって一番記憶に残る一つという「春待つ栗ヶ岳」という題名の組子建具が展示されています。

現代の名工に選ばれた感想をお聞きすると「建具や屏風は、家の中やスペースを仕切ったりするもので特別なものではありません。日常生活で使っていただけのもので作るのが私の仕事ですから、今までと変わりません」と話しておられました。

# 長年の功労をたたえ 秋の叙勲・褒章

秋の叙勲・褒章において、加茂市から四名の方が受章の榮譽に輝きました。その喜びの声をうかがいました。

## 瑞宝双光章

(社会連帯推進功勞)



馬場道子さん  
(五番町・74歳)

馬場さんは、加茂生活学校に昭和六十一年から補佐メンバーとして加わり、平成七年からは運営委員長としてリーダーシップを発揮し、同九年から新潟県生活学校連絡協議会の会長を務めています。

今回の受章は、平成九年から務めている『あしたの新潟県を創る運動協会』副会長としての功績が認められたものですが、実質的にはその構成会員である加茂生活学

校における実践活動が高く評価されたものです。

加茂生活学校は、全国的にも早い県内の先駆けとして昭和四十四年に開校、女性の視点から「毎日の生活を支える消費者たる主婦も勉強が必要」と、環境と資源、健康と食品など幅広く取り組んできました。その三代目運営委員長として今回の受章を「メンバーの協力添えをいただき、大勢の力を結集しないと成果は上がらない。皆さんの力があつたからこそ」と、周囲に感謝します。

今年度の重点目標である環境に優しいライフスタイルの実践活動の継続、レジ袋削減、マイバックのキャンペーンを展開するほか、

当時まだ少なかった女性校長を務めた教職出身らしく、次代を担う子どもたちの意識づけのため、市内外を問わず小中学校を回って環境教育に力を注いでいます。

## 瑞宝双光章 (消防功勞)



岡地佳雄さん  
(都ヶ丘・78歳)

「消防団員、また消防署職員として通算三十七年間、与えられた職務を当然の仕事として果たしてきただけ。本当に光榮で、安心・安全の仕事を共にしてきた同僚、上司に感謝しています」と、受章を素直に喜んでいきます。

昭和二十七年、二十四歳のとき

地域の先輩に勧められて消防団に入り、同三十八年の加茂市消防署の発足と同時に消防職員となりました。三十六年の第二室戸台風、三十八年豪雪、三十九年の新潟地震と大きな災害が続き、四十年代は四十二年、四十四年など連年のように大水害に見舞われました。

その際「加治川水害時に応援に行つたところから支援をいただき今では普通の応援協定のありがたさを痛感しました」と言います。当時の住まいは、加茂川に近い低地で、床上浸水の被害を受けても常に災害の現場で、自宅を守ってきた奥さんに感謝し「即断即決の現場が自分の性分に合っていたようです」ということです。

消防職トップの消防長時代に、懸案だった田上町との広域消防の準備、調整を進め、退職した平成元年に正式に発足したのが一番の思い出です。退職後は「これからは福祉の時代」と、加茂市社会福祉協議会の事務局長を六年務めました。

## 黄綬褒章 (業務精励)



今川友一さん  
(大郷町一・75歳)

褒章受章にあたり「何より加茂郷土地改良区組合員の協力、そして歴代の総代、役職員の指導と協力があつたからこそで、私個人でなく代表していただいたもの」と、関係者に感謝の言葉です。

今川さんは、昭和四十六年九月から総代に始まり、引き続き理事として十一期三十三年、合わせて三十五年の間、円滑な土地改良区運営と事業の推進、発展に献身的な努力を重ねてきた業績が認められたものです。この間、会計理事、職務代理、理事長の要職を各二期六年ずつ務めました。また、市議会推薦の農業委員として約十年、信濃川下流土地改良区連合の議員、監事、管理委員のほか、副理事長を約六年務めました。

信濃川の恒久的な水位低下により、昭和五十七年用水の抜本的な改良に着手、さらに国営信濃川下

流土地改良事業の進捗に伴い、右岸幹線からの分水によるパイプライン用水の供給、老朽化した排水機と幹線排水路の整備も同時に行うべく、平成二年度から県営かんがい排水事業「加茂郷地区」として事業実施に取り組みました。

この結果、パイプライン工事の完了で「平成六年の大干ばつに際し、用水供給が効果を發揮して、干ばつ被害を食い止めたことが一番ありがたくうれしい出来事でした」と、当時を振り返っています。

## 藍綬褒章 (統計調査功績)



菊田 泰策さん  
(仲町・66歳)

昭和五十年の国勢調査から調査員を務め、各種統計調査に携わってきた菊田さんは、褒章を「身に

余る光栄で、大勢の方々の長年にわたる温かい指導、支援のおかげです。名誉なことで大変ありがたく素直に喜んでいきます」と周囲に感謝し、受章の感想を語ります。

統計調査員のきっかけは、加茂市統計協会の礎を築いた父親が高齢で調査員を引退したのを機に、地元区長に頼み込まれて今日に至りました。その種類は、工業、商業、サービス、住宅、就業、労働など十八種類に及び、その回数は百三十回に及ぼうとしており、「父親が亡くなったとき一回だけ他の調査員に代わりをお願いしました」と三十年余を振り返ります。

エピソードとして「担当区域の見取図をつくる準備作業中、住宅の様子をうかがう不審者と見間違われ詰問されたことも」と苦笑します。しかし、身分証を示し事情を話すと、ねぎらいの言葉が返ってきました。最近では、個人情報保護が前面に出て、調査票を入れた袋に封をして提出する人も多くなりました。

明治元年創業の菊屋旅館五代目当主として忙しいなかでも、昨年まで十八年間、人権擁護委員を務め、消防団員は二十六年、民生児童委員は二十一年務めている現役で、多大な貢献が続いています。

# とっておきの加茂・秋物語

## 遊・食・技特産品フェア2007



産業センターに展示された三尺玉花火の模型



メイン会場の市民体育館には、40社以上が展示スペースに出展



中央コミュニティセンターでは、いろいろな体験コーナーがありました

十一月十・十一日の二日間、市民体育館・中央コミュニティセンター・産業センターと商店街などで、加茂の特産品や新商品が紹介されました。

今回、市民には再発見、市外の方からは新発見をしていただこうと、初めての試みとして行われ、メイン会場となった市民体育館には四十を超えるお店が展示ブースをつくり、桐たんすや屏風・建具



産業センターでの「自分で握れる加茂産コシヒカリおにぎり」試食会のようす

の木工製品、加茂織・ニット、お菓子など加茂の特産品が並びました。産業センターには、家電製品や災害時に便利なパルプ製品が展示されました。最近では、自然災害が続いたことで、来場者の注目が集まりました。中央コミュニティセンターは、雪椿の花びら染、パッチワーク、子どもたちのブルーアート教室の体験コーナーが集まり、自分だけのオリジナル作品製作が人気を集めたようです。

三会場だけでなく、(株)マスカガミさんのご協力で上条・大橋脇にある「ニゴロッサ」の所蔵美術品



新名物として登場し、大好評の「鯛めし」



夜にはジャズの生演奏が聴ける、加茂山公園の屋台村

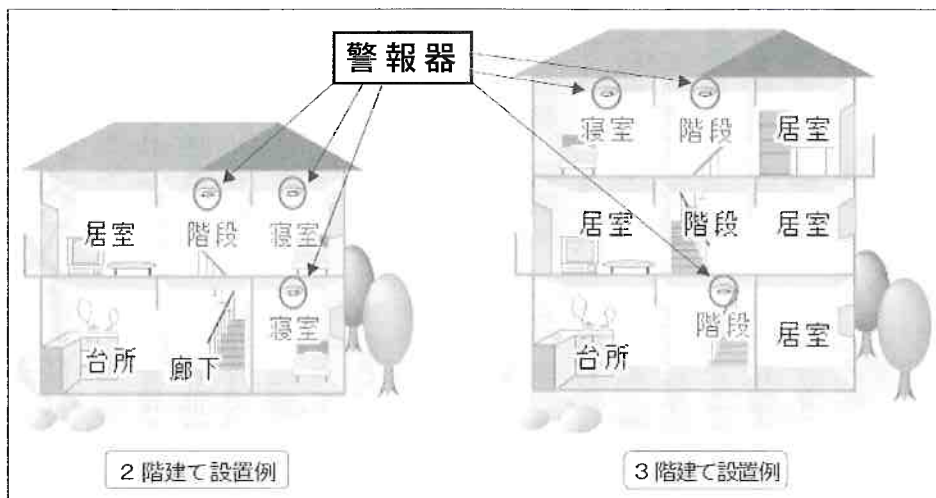
が公開され、大勢が鑑賞していききました。夕方には、加茂山公園駐車場で屋台村が登場し、温かい料理を食べながら、ジャズの生演奏を楽しめるといふ企画も用意されました。

今回の催しでは、市内外の人から、加茂の街・産業・特産品をもっとよく知ってもらおうことができました。



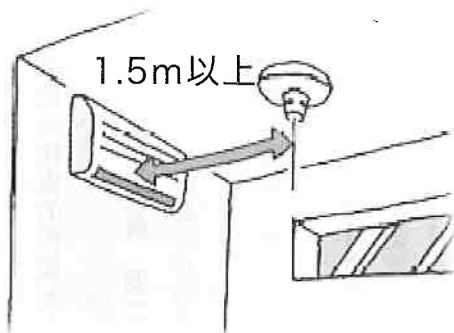
火災から大切な生命を守るため

# 住宅用火災警報器を取り付けましょう

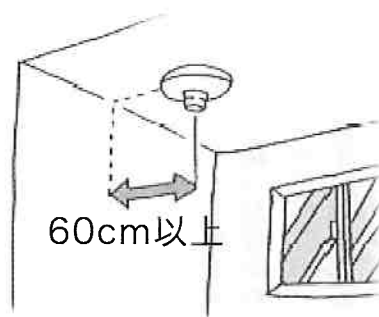


火災の発生をいち早く知り、人命を守るためすべての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。  
昨年（平成十八年）六月一日以降に新築された住宅には必ず設置しなければなりません。また、平成二十三年五月三十一日まではすべての住宅に設置することになっています。

- 設置場所**
- 寝室に設置します。
  - 2階に寝室があるときは階段にも設置してください。
  - 寝室が3階にあるときは1階の階段にも設置します。
  - 四畳半以上の居室が5室以上ある階には廊下にも設置。



換気扇やエアコンがあるときは、1.5m以上離して取り付けてください。



天井に取り付けるときは、壁やはりから60cm以上離します。

## 取り付ける場所

警報器は、防災用品店、ホームセンター、家電販売店、ガス器具販売・工事店などで取り扱っています。機器の種類は光電式（寝室・階段用）とイオン化式（廊下用）の2種類があり、個人で取り付けることもできます。詳しくは、販売店、工務店などにお問い合わせください。

機器の購入、設置場所のお問い合わせは  
**加茂地域消防署へ**

**電話 52-1770**

（※110番・119番は緊急通報専用電話です。  
火災発生場所は、電話52-1233テレガイド  
でお知らせしています。）

**ご注意ください!!**

消防署・消防団が「住宅用火災警報器」「消火器」などを訪問販売することはありません。「消防署から来た」という言葉にはご注意ください。

# 新・市指定文化財紹介(2)

今年度、新たに指定された市文化財は八件。前号に引き続き、その概要を紹介します。

## 木造釈迦如来坐像一軀

(耕泰寺所蔵)

本像は耕泰寺の本尊で、像高は六七・三センチメートル、檜材から作られています。垂髻、白毫・玉眼(ともに水晶が入っています)、三道をあらわし素地仕上げですが、口唇に朱彩が残っています。宝冠をつけ、胸前に瓔珞を掛け、両手を屈して法界定印を結び、左足を上結跏趺坐する像です。衲衣は



正面と像内の修理銘(下)

両肩を覆う通肩を示しています。頭体部は豎一材からなり、頭部は割首で、耳の前で前後に割り矧いで内衿りを施し、体部も像底から刳っています。これに横材の両脚部と裳先部の小材を寄せています。両肘から先も別材です。全体に角張った体軀、通肩衣のややにぎやかな衣文の表現などから、十四世紀後半の南北朝時代の制作になるものと思われまます。また、腰部の内面墨書により寛文十三年(一六七三)に修理がなされたことがわかります。その後さらに傷みが進んだため、今から約五十年前に京都仏師による本格

的修理がなされました。

この昭和三十年頃の修理によってもとの姿に整えられ、保存状態は良好であり、加茂市における南北朝時代の代表的仏像として貴重であります。

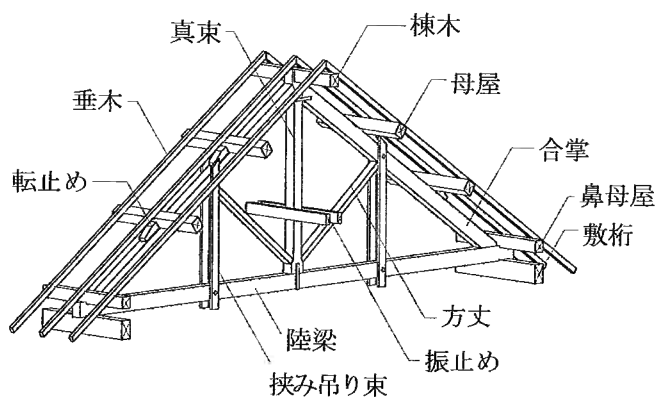
(加茂市史編集委員 羽二生寛興)

## (株)加茂製材事務所棟

株式会社加茂製材事務所棟は、加茂川の右岸の上条地区にあります。この会社は、明治四〇年(一九〇七)、織物商であった皆川良七ら七名が発起人となり設立された加茂市最古の株式会社です。

事務所棟は昭和四年(一九二九)に新築されました。棟梁は、会社創立者の一人である川口清作の従兄弟、川口善次郎です。善次郎は青森県大湊を訪れ、そこで影響を受けた和洋折衷様式を取り入れて事務所棟を造ったといわれています。

間口二間半×奥行六間の木造二階建て部分と、その南東側に三間×三間の平屋部とで構成されています。屋根は半切妻造で棧瓦葺。外壁は下見板張りを基調とし、妻



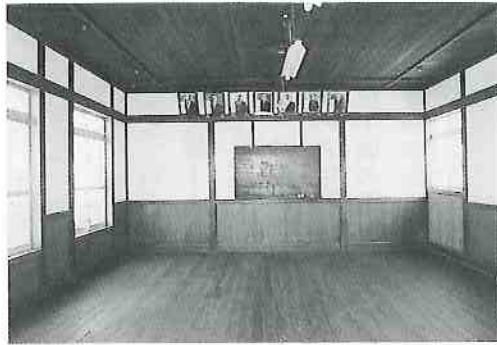
事務所棟の小屋組み

壁の一部はドイツ壁と呼ばれるモルタル製の飾壁、小屋組は一般の和風小屋組とは異なる三角形を基本単位として部材を組上げる洋小屋構造(トラス構造)、外壁はハーフティンバー形式(洋風の真壁形式)とするなど洋風意匠を多く取り入れています。

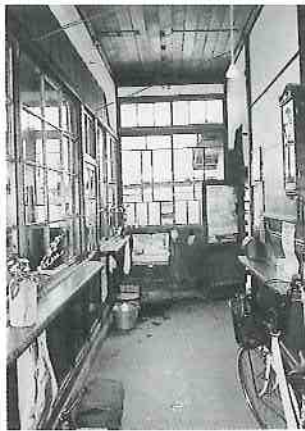
加茂製材株式会社は木工の町加茂を象徴する会社であり、事務所棟はその中心となる建造物で、地域における擬洋風建造物の先駆けとして貴重な存在です。現在でもこれを参考として建てられた建造

物が市内にいくつか残っています。外観は全体的にシンプルな仕様としながらも、外部妻面の持送りや各室の飾り天井、内部の建具やカウンター等の造作部には当時高級輸入材であったラワン材を用いるなど、随所に洋風意匠を求めた建築当時の時代相を窺い知ることができます。

(加茂市史編集委員 山崎完一)



事務所棟の回廊(左)と2階大会議室  
(上:歴代社長の肖像がある)



## 第4回加茂菊花展

菊花愛好家の皆さんの、丹精こめて育ててこられたものが、冬鳥越スキーガーデン特設会場に展示されました。今年は、七月の日照不足、八月の高温で開花時期が遅くなったそうです。展示が始まった十一月初旬には、咲き始めたばかりのものもありましたが、開催期間をとおして、例年以上に楽しめる菊花展となりました。

今回、二百五十九品が出品された。また、部門外の大木付けを出品された四名に奨励賞が贈られました。(敬称略)

【総合賞】※各部門の優秀賞から選定。市長賞「天女の名所」石倉



市長賞「天女の名所」  
(七幹立・石倉広茂さん)

広茂(七幹立・新潟市)・二等賞「弥彦の桜」花島喜一郎(中菊・五泉市)・三等賞「太平の銀峰」酒井栄策(厚物三幹・三条市)

【管物三幹】優秀賞「清見の翁」牛田豊作(田上町)・第一位「清見の翁」桜井美千代(新潟市)・第二位「宝幸白滝」佐藤賢之輔(燕市)・第三位「泉郷富水」吉井セツ子(五泉市)、「清見の翁」牛田豊作【厚物三幹】優秀賞「太平の銀峰」酒井栄策(三条市)・第一位「太平の銀峰」桜井美千代、「太平の銀峰」安中朝次(上町)・第二位「富士の輝」小杉喜八郎(三条市)、「富士の白雪」桜井美千代・第三位「太平の銀峰」牛田豊作【懸崖】優秀賞「輝」小野福四郎(中鶴森)・第一位「阪神の誉」梅田一夫(五泉市)・第二位「山端の雲」桜井美千



二等賞「弥彦の桜」  
(中菊・花島喜一郎さん)

代【七幹立】優秀賞「天女の名所」石倉広茂・第一位「太平の銀峰」大竹与市(新潟市)・第二位「清見の翁」青木丞輔(燕市)【盆栽】優秀賞「みかど」松澤ヨシイ(長岡市)・第一位「みかど」酒井正博(新潟市)・第二位「席」相田文男(新栄町)【中菊】優秀賞「弥彦の桜」花島喜一郎・第一位「秀芳緑」酒井栄策・第二位「宮の松」大竹与市・第三位「江戸黄八丈」関川勝(下鶴森)【だるま・福助・切花】優秀賞「金山」石倉広茂・第一位「国華強大」大竹与市・第二位「精興右近」大竹与市・第三位「精興右近」安中朝次

【奨励賞】清水修、涌井秀一、安中栄五郎、清水清松(いずれも上下条)



三等賞「太平の銀峰」  
(厚物三幹・酒井栄策さん)

# 加茂市の古墳時代遺跡

「古墳」と聞くと卑弥呼の墓との説もある奈良県桜井市の箸墓古墳や東アジア最大規模の古墳である大阪府堺市の大仙陵古墳（伝仁徳天皇陵、長さ四百八十六m）などの鍵穴形をした前方後円墳を思い浮かべる方も多いのではないかと。

古墳時代とは文字どおり「お墓」を指標として時代区分されており、概ね三世紀後半〜七世紀初めの約四百年間をよんでいる。大きくは前期・中期・後期に区分される。

加茂市の古墳時代の集落遺跡は、四世紀後半頃の前期の遺跡が多く、沖積地を積極的に開発して村を営んだ様子が見える。遺跡はこれまで加茂川と下条川に挟まれた水田地帯を中心に発見されている。

## 加茂の風土記

丸瀧遺跡は加茂市を代表する古墳時代前期の遺跡で、平成十年の発掘調査で河川跡が見つかり、その中からおびただしい量の

土器が出土した。赤く塗られた土器も多く、非実用品の舟形や杵形の木製品も一緒に出土し、何らかの祭儀が行われた場所と推測される。丸瀧遺跡に近接する新通遺跡からは灌漑用水に関連すると見られる板列が発見されている。他にも現加茂市役所庁舎付近で調査された釜淵遺跡からも多量の土器群が発掘されている。中期になると遺跡は減少し、馬越遺跡、中沢遺跡などで土器群が確認されるのみで、集落の様相は不明である。後期になると千刈遺跡、再び釜淵遺跡から多量の土器が出土し、



宮ノ浦古墳の全景

人々の活動痕跡が顕著となる。

このように古墳時代の遺跡数は、前の弥生時代に比べ格段に多くなり、当地域は大きな変革期を迎えたことが推測される。

この時期（四世紀頃）、一定の地域を統治した首長が葬られた遺跡が「古墳」である。加茂市では下条地区の丘陵上に宮ノ浦古墳（通称熊野山）、福島一号墳から五号墳の合計六基の古墳が確認されている。すべて円形の墓（円墳）で直径一〇〜二〇m前後の規模を持つ。県内最大規模の前期古墳は新潟市秋葉区古津八幡山古墳で全長五十五mであるから、三分の一程の大きさである。新津丘陵から長岡市にかけては円墳が特徴的で、共通の造墓観念からひとつの政治的地域圏が設定可能と考えられている。

宮ノ浦古墳及び福島古墳群ともに集落とは隔絶された丘陵上に立地し、非常に見晴らしのよい場所を選んでいる。集落内外に対し、権力や同盟のシンボルとして見せつける意図があったのであろう。丘の上から約千七百年間も社会を見守り続けた様は威風堂々としており、大きな感銘を禁じ得ない。

（伊藤秀和）

訂正とおわび

■広報かも9月号（No.615）10ページ「冬鳥越クロスカントリー大会」で（小学生男子）の順位表示が誤っていました。正しくは掲載順のとおりです。

■広報かも10月号（No.616）7ページ「新たに指定された加茂市の文化財」の表中で（木造男神女神坐像附猿像）と（木造釈迦如来坐像）の所有者が誤って掲載されました。正しくは、

（木造男神女神坐像附猿像）の所有者が「下高柳日吉神社」（木造釈迦如来坐像）の所有者が「耕泰寺」です。

■広報かも10月号（No.616）9ページ「総体結果」の空手道大会で選手所属が（加茂空手道会）とあるのは「スポーツ少年団」のあやまりです。

以上、訂正しておわびします。

### 人口のうごき

11月1日現在	
世帯	10,059 (+9)
人口	31,814 (-27)
男	15,374 (-19)
女	16,440 (-8)
( )内は前月比	
(10月異動分)	
出生	18 (男10女8)
死亡	41 (男23女18)
転出	49
転入	45